

## 研究課題：気管切開児の言語・コミュニケーション発達に関する研究

### 1. 研究の目的

気管切開による発声機能の制限は、お子さんの発音や言語・コミュニケーションの発達を阻害する可能性があります。そのため、スピーチバルブを装用して発声を促すことや、言語・コミュニケーションの発達を促す関りを意識的に行っていく必要があります。しかし、気管切開児の音声言語発達の特徴や、効果的な指導方法はまだ不明な点が多いのが現状です。

本研究では、当センターで言語聴覚療法を受診された患者様に対して言語評価および発達評価等を実施し、得られた結果を検討することで、今後の治療の一助とすることを目的とします。また、必要に応じてリハビリテーションを実施して、その有効性を検証します。

### 2. 研究の方法

気管切開による発声障害を有する患者様に対し、言語検査および発達検査等を実施します。また、必要に応じてリハビリテーションを実施します。得られた結果および経過をもとに、以下について検討します。

- 1) スピーチバルブの装用の有無と音声言語発達に関連について
- 2) スピーチバルブの装用時期、装用時間と音声言語発達に関連について
- 3) 気管切開児の言語・コミュニケーションの発達特徴について
- 4) リハビリテーションの有効性について

### 3. 研究期間

平成31年1月10日から5年間

### 4. 研究に用いる資料・情報の種類

言語検査、発達検査等の結果  
スピーチバルブの装用状況  
リハビリテーションの経過

### 5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

関連学会での演題発表および論文発表

6. 研究組織

埼玉県立小児医療センター

研究責任者

保健発達部 技師 遠藤俊介

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、平成32年3月31日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）